

1. はじめに

(1) 計画の目的

桑折町都市計画マスタープランは、「自然と歴史と文化のふるさとこおり」を将来像として、平成 27 年（2015 年）を目標年次として、「いきがいとやすらぎの地域社会、ともに支えあう福祉社会の創造」「自然と調和した土地利用の推進」「快適性、利便性の高い都市基盤の確立」「豊かで魅力ある安全な生活環境の確立」「活力あるバランスのとれた産業構造の展開」「豊かな教育と文化の香りただよう生涯学習体系の確立」「住民参加による民主的な実効性のある行財政の推進」を基本目標として、将来人口 14,500 人（平成 27 年度）に対応した、独自性のあるまちづくりを目指した約 20 ヶ年の計画で、平成 9 年 3 月に策定しました。

しかし、計画策定から 10 年が経過し、産業活動の低迷や人口の減少等を背景に、少子高齢化社会の到来、中心市街地の衰退などの社会経済情勢の変化や、都市計画に関する制度面の大幅な改正、県北都市計画区域マスタープラン（県北都市計画区域の整備、開発及び保全の方針）の策定や、自立のまちづくりを進めるため上位計画にあたる桑折町新長期総合計画～新生こおり 21 プラン（平成 18 年 3 月策定）など、都市計画において大きな変化がおきてきました。特に、都市計画マスタープラン策定の基礎となっている数値的根拠も時間とともに変化してきているほか、これからの時代に応じて、さらには財政状況に応じて、重点的な投資、継続的な投資など、身の丈にあったまちづくりのため、柔軟に対応していく必要があります。

また、近年の地球規模での環境問題に対する意識の高まりから、森林や緑地を保全・創出し、自然と人間が共生する緑豊かな生活環境を整備していくことが重要となっています。

このようなことから、単独町として自立（自律）のための持続可能な個性あるまちづくりをみなさんと協働で進めていくため、桑折町都市計画マスタープランの見直しを行うことになりました。

このマスタープランは、これからの桑折町のまちづくりの指針として、目指すべき将来像と、その実現に向けた取り組みの方向性を示すものです。

【見直しの趣旨】

これまでのような都市の拡大成長を前提としたまちづくりのあり方を転換し、都市機能を集約したコンパクトなまちづくりの構築に向けてマスタープランの見直しを行う必要があります。

また、従来のような行政主導のまちづくりから、町民主体のまちづくりへの転換していく必要があります。

【対象範囲】

都市計画区域を主体としながらも、都市計画区域外も含めて、一体的なまちづくりを進めていくため、行政区域全域を対象範囲とします。

【目標年次】

本計画が目指す将来目標年次は、策定年次より概ね 20 年後の平成 37 年（2025 年）とします。ただし、今後の計画の進捗状況や社会情勢の変化等により、計画を変更する必要がある場合には見直しを行うものとします。

(2) 計画策定の進め方

